オーディオ実験室収載

ヴォリュームアキュライザーの模造品(3)

１．始めに

前報(2)に引き続き、ヴォリュームアキュライザーVRA-7 の模造品を検討します。

２．模造品３号の制作手順

方針としては、前報(1) と同様、似たような容器を調達し、制振材を封入してみます。まず、容器としては、形状が似ている缶入りメンソレータムを選び、次のような手順で制作してみました。

手順としては、缶入りメンソレータムの利用により前報(1)の手順 5) までは同様です。

以下、下記の手順で進めます。

6) VRA-7 に倣って缶の底および蓋に小さい孔を穿つ

7) 下記を準備し、前報(2)と同じフェルトを２枚重ねて缶内に納める

　手芸用黒色フェルト２枚

8) 缶の外面の底に粘着シートを貼る

9) 蓋をして、缶の蓋上面と側面に、電磁波の飛び込み防止のためのオヤイデの電磁波吸収シートを貼る

左：模造品２号(前報)　右：模造品３号

３．模造品３号の試聴

試聴は、TruPhase のヴォリュームへの適用で効果を評価します。

対照として、前報(2)の模造品２号と VRA-7 を使用します。

音源は、ヴォリュームアキュライザーの導入(2)と同様の経路により同じアナログ音源で TruPhase での効果を確認します。但し、アンプは Langevin 6V6 から Rogers Cadet Ⅲに替わっています。

Deutsche Grammophon　483-6927/6928/6929

J.S.Bach　Sonatas & Partitas

Nathan Milstein
ドイツグラモフォン MG9551
ベートーヴェン　三つのピアノソナタ（選帝侯のソナタ）
ゲザ・アンダ（ピアノ）
LONDON KLJC-9180/9184（RTI／キングレコード）
リヒヤルト・ワーグナー　ワルキューレ全曲
ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル
Angel（東芝 EMI）AA 9117・C
ゲオルグ・フードリッヒ・ヘンデル　メサイア
オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア
今回は、先に VRA-7 で聴いておき、模造品 3 号に替えてみます。

Sonatas & Partitas は、ちょっと聴きでは、VRA-7 にそん色なく、ヴァイオリンの切れ込みが弱いかなという程度です。
選帝侯のソナタは、ちょっと聴きでは、VRA-7 にそん色なく、ピアノの打鍵の鋭さや響きの豊かさが少しばかり及ばないかなという程度です。
ワルキューレは、迫力は VRA-7 にそん色なく、心持ち緻密さが足りない程度です。
メサイアは、合唱の迫力は VRA-7 にそん色なく、心持ち緻密さが足りない程度、弦やシュワルツコップの声も少しばかり繊細さが足りていない程度かなというくらいです。
ちょっと聴きでは、VRA-7 にそん色ないということで、再び VRA-7 に戻して、Sonatas & Partitas を聴いてみますと、細かい擦弦音や胴鳴りの再現など点で VRA-7 が上位にあることが分りました・
総じて言えば、VRA-7 と同じ方向の変化がありますが、VRA-7 を 10 とすれば、8～9 割程度のパーフォーマンスを示しています。また、模造品 2 号より VRA-7 に近づいたという印象ですが、模造品 2 号と違って内容物がフェルトのみであり、蓋の上面と側面に貼ったものが foQ シートから電磁波吸収シートに替わっています。

4．まとめ
模造品 3 号は、VRA-7 の実物には及びませんが、確かにそれに近い程度に音が変わることが確認できました。指先で触っても振動が感じられないくらいの微振動のところに VRA-7 が整振効果を現すことが、このような模造品の作成で分かってきまし

た。
これまでに作成した模造品 1 号、2 号、3 号は、VRA-7 を使いたいところですが、数が不足するところに事前のものとして使っていきます。

以上